

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 2020（令和2）年10月1日
(2)調査対象期間 2020年7月～9月期の実績および2020年10月～12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス・諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	14 社	46.7%
水産業部会	30 社	21 社	70.0%
機械工業部会	30 社	14 社	46.7%
建設業部会	30 社	18 社	60.0%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	21 社	70.0%
合 計	150 社	88 件	58.7%

注）本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ．概 況

－今期の業況はやや悪化。次期は僅かに回復の見通し－

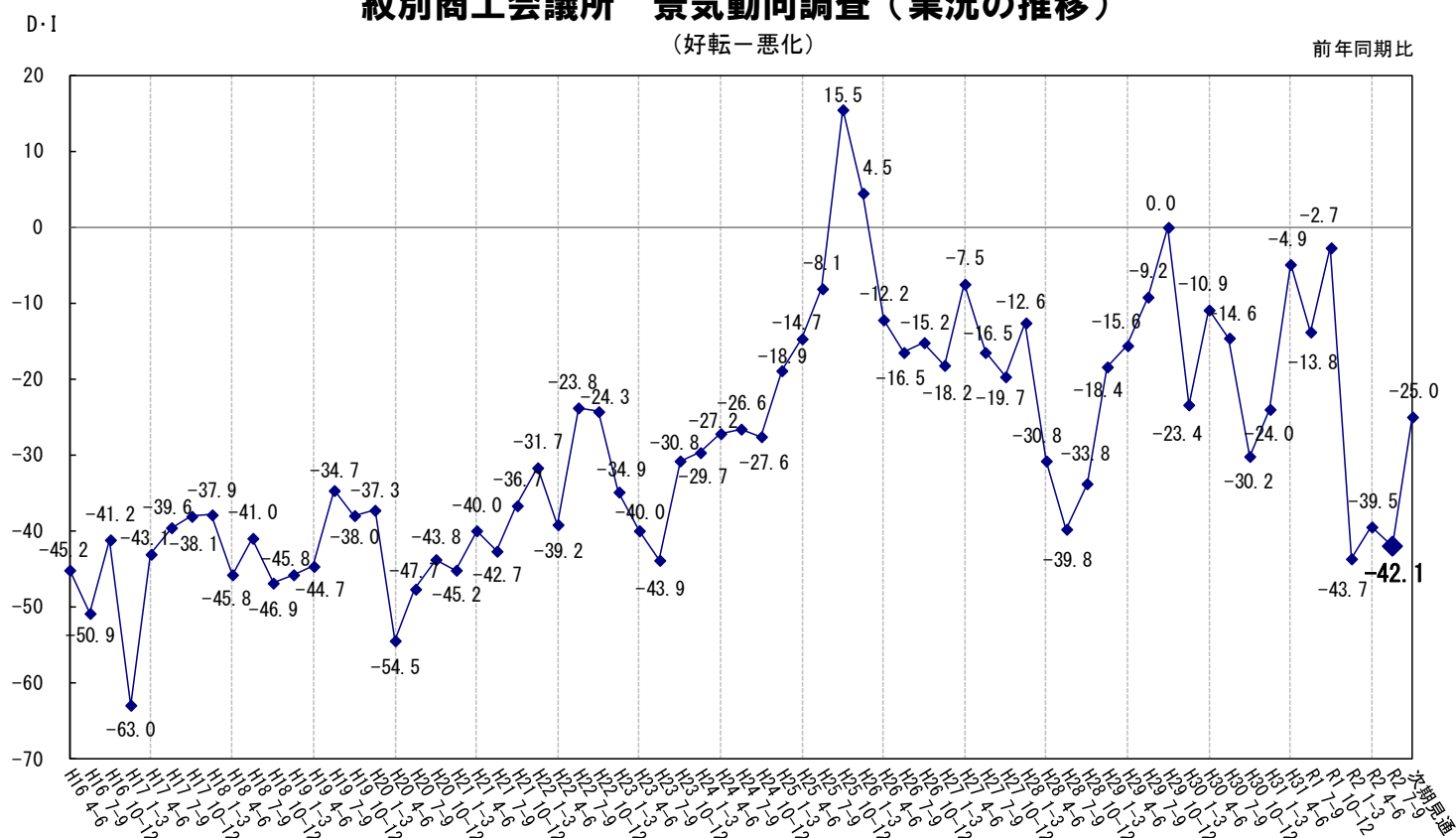
1. 全体の動き（業況）

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期（2020（令和2）年7月～9月）の全業種平均DI値**（「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差）は、**前年同期比▲42.1と前年同期▲13.8から大幅に悪化**となりました。

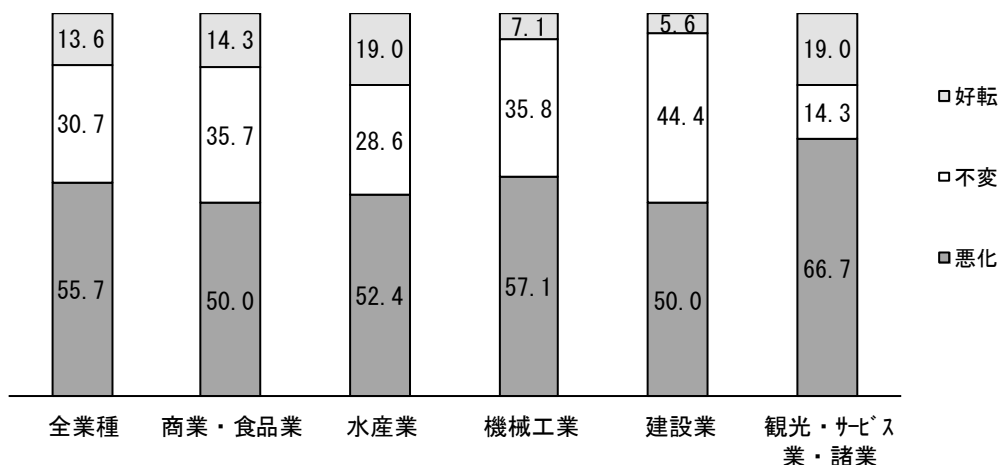
業況判断DIを前年同期と比べてみると、商業食品業〔前年DI値▲37.5→今期▲35.7〕、水産業〔前年DI値▲18.8→今期▲33.4〕、機械工業〔前年DI値▲21.4→今期▲50.0〕、建設業〔前年DI値0.0→今期▲44.4〕、観光サービス業・諸業〔前年DI値▲31.4→今期▲47.7〕と商業・食品業でわずかに回復したものの、その他の業種全てで悪化となりました。経営上の問題点は、依然として「仕入単価の上昇」、「従業員の確保難」、「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

来期（2020（令和2）年10月～12月）については、**業況判断DIは▲25.0**と今期と比較して不変との回答が増加しています。2020年が始まって以降、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅な悪化を示し、大都市圏を中心に感染者が未だ減少しない状況の中、緊急事態宣言時と比較すると業況は回復の兆しがあり、今期よりも悪化との回答は減少しつつあるものの、「不変」との回答が増加しています。一方で、建設業で今期よりも好転する見通しを示す回答が多くなっていることから、景況の引き上げが期待されます。

紋別商工会議所 景気動向調査（業況の推移）



今期の業況（前年同期比）



部会別の動向

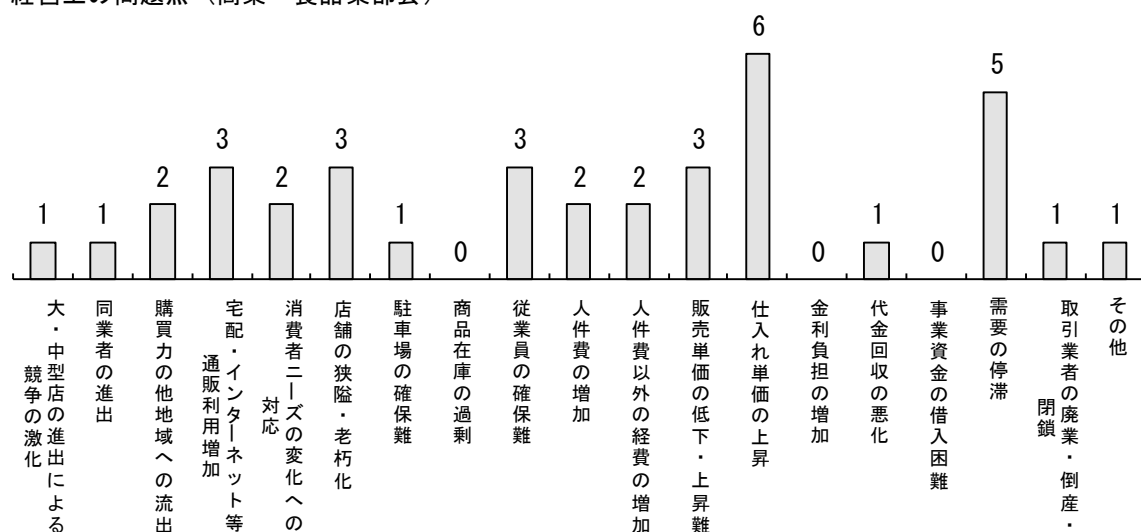
【商業・食品業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲35.7（前年 DI 値▲37.5、来期見通し▲21.5）〕

業況 DI 値（前年同期比）は、前年同期より 1.8 ポイント回復となりました。前回調査時（▲47.0）と比較すると 11.3 ポイント改善されました。新型コロナウイルスの感染者が各地で再び増加傾向にある中、内食の為の食材や感染対策の商品の購入等、食料品小売業を中心に業況が好転しているとの回答が寄せられています。また、7 月 1 日から発売された紋別市プレミアム付商品券も、当所へ持ち込まれる換金状況から購入者が順調に利用されている様子が窺えます。来期は、今期より悪化の回答が減少し、14.2 ポイントの回復が見込まれています。経営上の問題点としては「仕入単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・キャッシュレスによるキャッシュフローの悪化（医薬品・化粧品小売業）
- ・菓子製造メーカー（本州）より、コロナの影響で商品種類を減らす傾向がある。（食料品卸・小売業）
- ・地域によって営業時間を自由に選べるようになって欲しい。（食料品等小売業）
- ・有効求人倍率が低下しているのに応募が来ません。どんなカラクリでしょう。（食料品小売業）

経営上の問題点（商業・食品業部会）



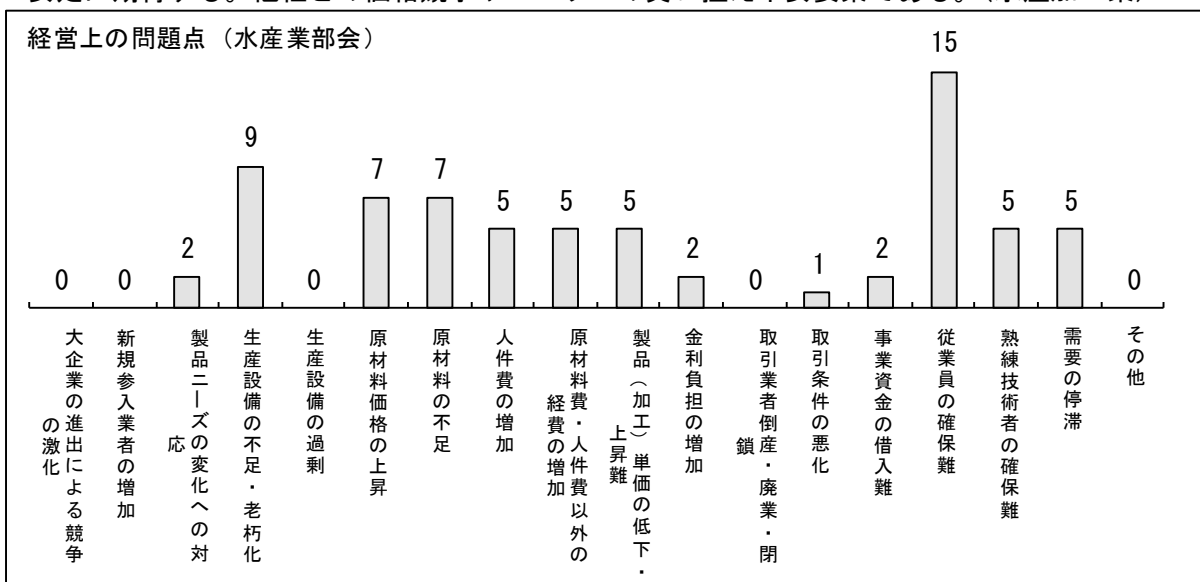
【水産部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲33.4（前年 DI 値 18.8、来期見通し▲38.1）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、52.2 ポイントの大幅な悪化となりました。例年 7～9 月は各地でイベントでの出店や百貨店等への催事等で紋別の海産物も販売され、人気を博していますが、今年は新型コロナの影響でそれらが中止となっている他、外食産業の不振から、飲食店からの注文が減少しているとの声も寄せられています。また、帆立は比較的小さいサイズの貝

が多く、加工に手間が掛かるとの意見の中、外国人実習生の入国が再開されない事で労働力不足を訴える声も寄せられています。来期については、更に悪化する見通しとなり、経営上の問題点としては、「従業員の確保難」が突出し、次いで「生産設備に不足・老朽化」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・ 資金不足の為、買い付けができない。(海産物卸売業)
- ・ コロナによる技能実習生の入国遅れ(水産加工業)
- ・ 第2四半期後半は原料漁獲が思わしくなく、原料調達に苦戦した。今後の原料漁獲回復と価格安定に期待する。他社との価格競争やユーザーの買い控え不安要素である。(水産加工業)

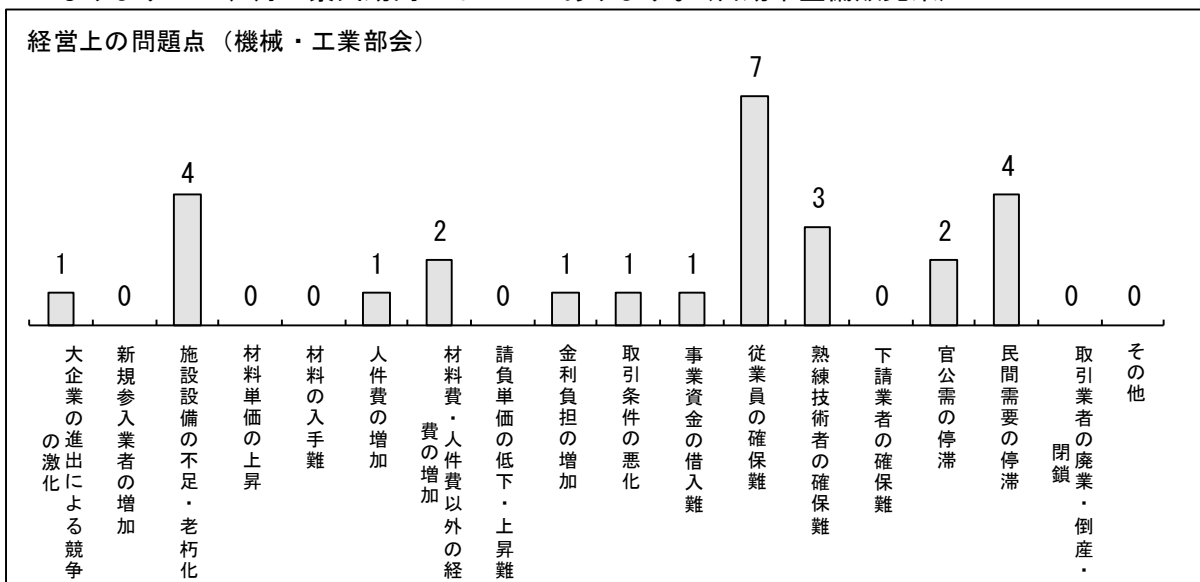


【機械・工業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲50.0（前年 DI 値▲21.4、来期見通し▲35.8）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、28.6 ポイントの悪化となりました。自動車整備業や印刷業は依然として業況悪化を示す回答が多くなっている一方で、資材等製造業ではやや好転を示す回答が寄せられており、ふるさと納税が昨年度よりも順調に推移しているため、その好影響もあるものと思われます。来期は悪化を示す回答が減少し、今期よりも回復する見通しとなっています。経営上の問題点として、「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 世の中コロナ禍の影響でどの業界も悪戦苦闘。売り上げが極端に落ち込み、笛吹けど踊らずで行き先不安です。終息を祈るのみです。(室内装飾)
- ・ 販社ごとで取り扱いが異なりますが、車輛販売は登録売上で受注してから2、3ヶ月前後の売上になりますので、月の景気動向にはズレがあります。(自動車整備販売業)



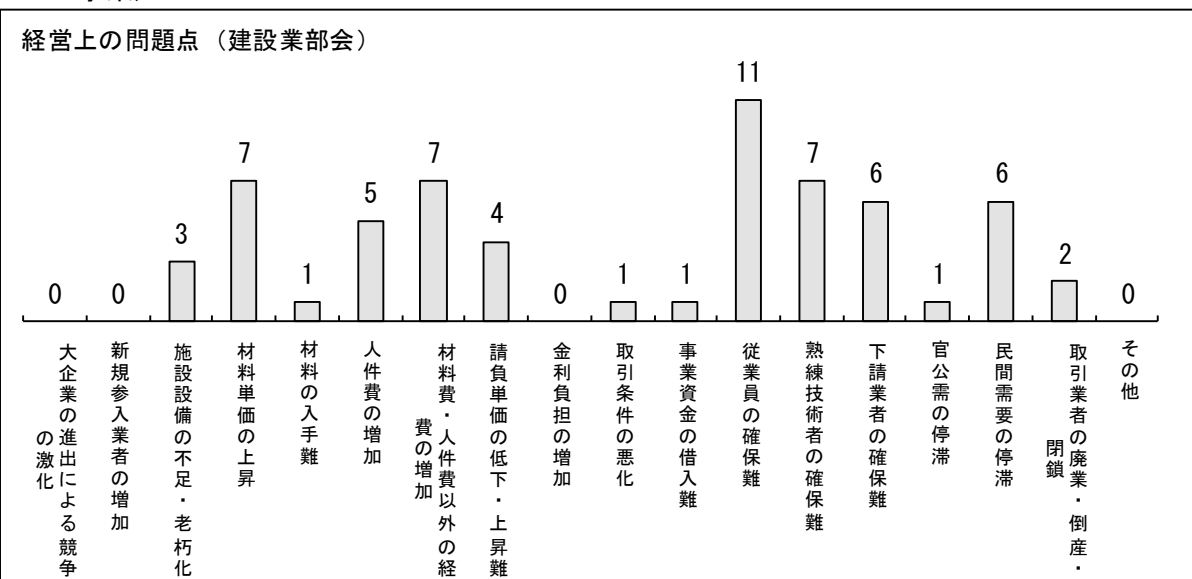
【建設業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲44.4（前年 DI 値 0.0、来期見通し 0.0）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、44.4 ポイントの悪化となりました。昨年は胆振東部地震によるブラックアウト発生以後、発電機の需要増加や酪農業の工事等、電気設備関連を中心に業況の回復が寄せられた他、消費税増税前の駆け込み需要もありましたが、今年はその反動も要因となっています。また、市内の公共工事も落ち着きを見せていますが、現在工事の進む海洋交流館の他、検討が進められている紋別空港の拡張、紋別市役所の新庁舎建て替え工事に向けて準備が進められていることから、市内業者の参入等による業況の回復に期待が持たれます。

来期は土木工事業を中心に好転の見通しが増加し、業況は回復傾向にあります。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」が最も多く、「材料単価の上昇」「材料費・人件費以外の経費の増加」「熟練技術者の確保難」と多くの課題が寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・管理者及び作業員の高齢化（建築業）
- ・冬期間の除雪対策について。コロナ感染した場合の対応。雪が降っても出動できない。（土木工事業）

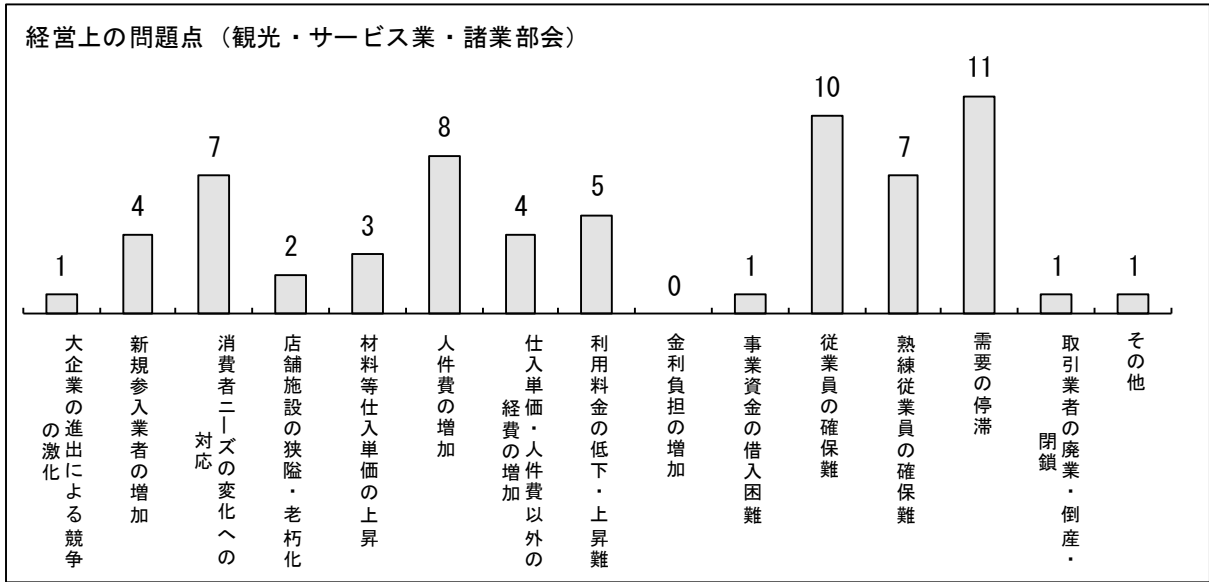


【観光サービス業・諸業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲47.7（前年 DI 値▲31.4 来期見通し▲28.6）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、16.3 ポイントの悪化となりました。昨年は宿泊業だけでなく、キャンピングカーによる滞在者も多かったことからコインランドリーや入浴施設等の利用者も増加していましたが、今年は新型コロナウイルスの影響により、観光客等宿泊者の入込数の減少に加え、一部飲食店ではプレミアム付き商品券で消費者が回復したとの声が寄せられるものの、未だ域内での会食等によるホテルや飲食店の利用は回復に至らず、苦しい状況が続いています。またソーシャルディスタンスによる入店人数の制限、感染防止対策による手指消毒や飛沫感染のパネル設置等、新たな経費も発生しています。次期は既に始まっている GoTo TRAVEL の他、北海道でもいよいよ GoTo EAT が始まることから、観光客の増加に加え、忘年会に向けた域内での消費の増加にも期待が込められ、宿泊業、飲食業、旅客運送業を中心に好転の見通しが多く寄せられています。経営上の問題点としては、「需要の停滞」「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・コロナ対策。GoTo EAT ! の取組みが良く分からない。コロナはいつ終息するの？（飲食業）
- ・事業用大型トラック運転手の高齢化に伴い、若い世代の運転者の確保・育成が課題。（貨物運送業）
- ・人の移動の停滞。従業員の高齢化、人口減少による売上減。（旅客運送業）
- ・月により売上高、利用者数の波が大きい。アンケートや資料、報告書等紙ベースでの作業が多く、実務に支障をきたしている。（介護福祉業）

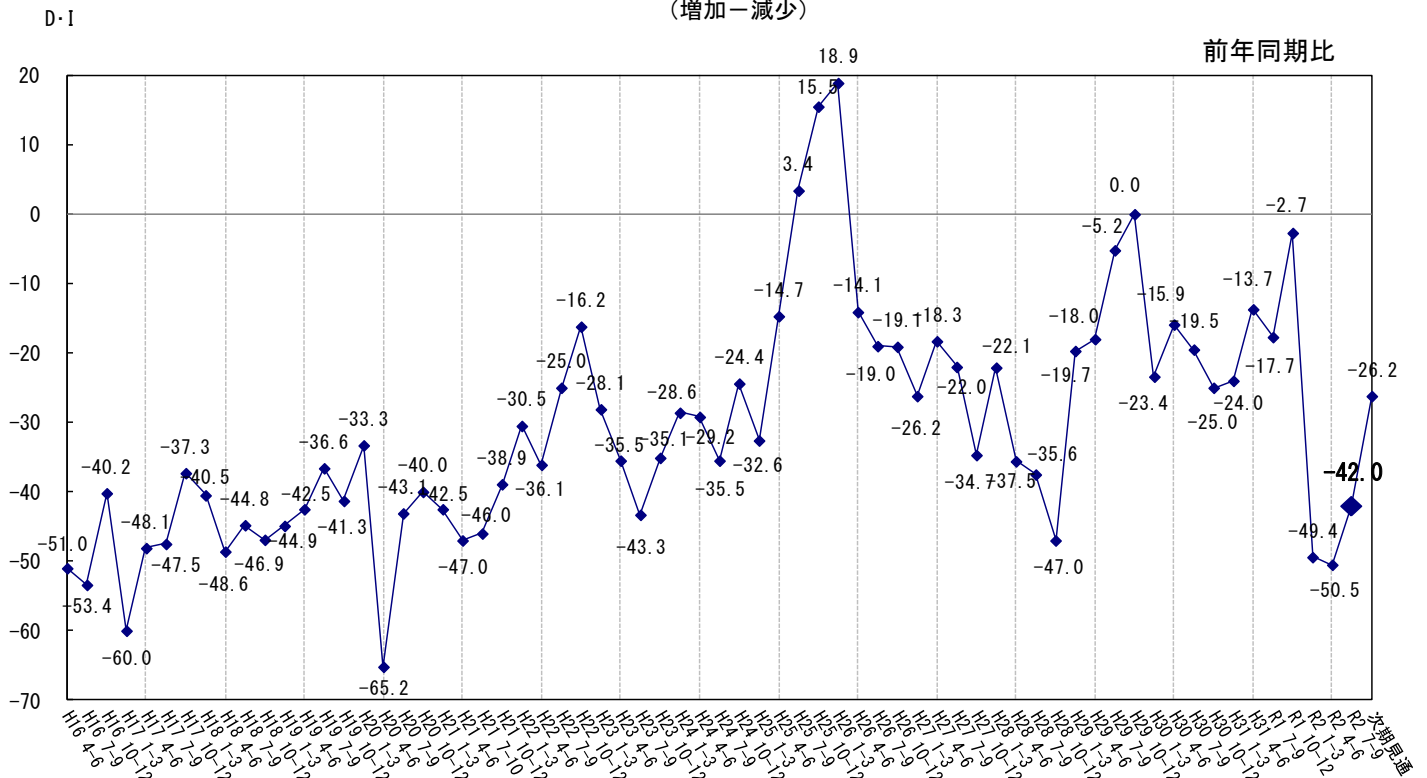


2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

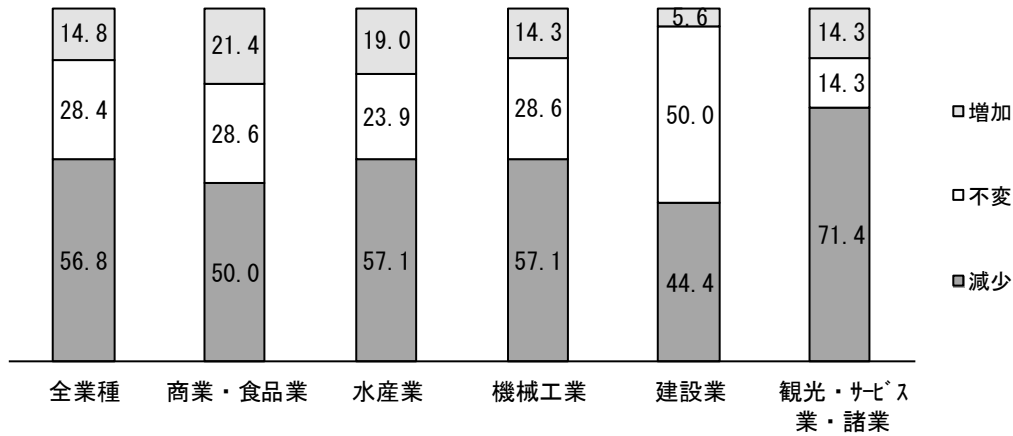
売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



【前年同期比】（2019（令和元）年7月～9月期の水準と比較した今期の売上高）

今期の売上高・生産高（前年同期比）



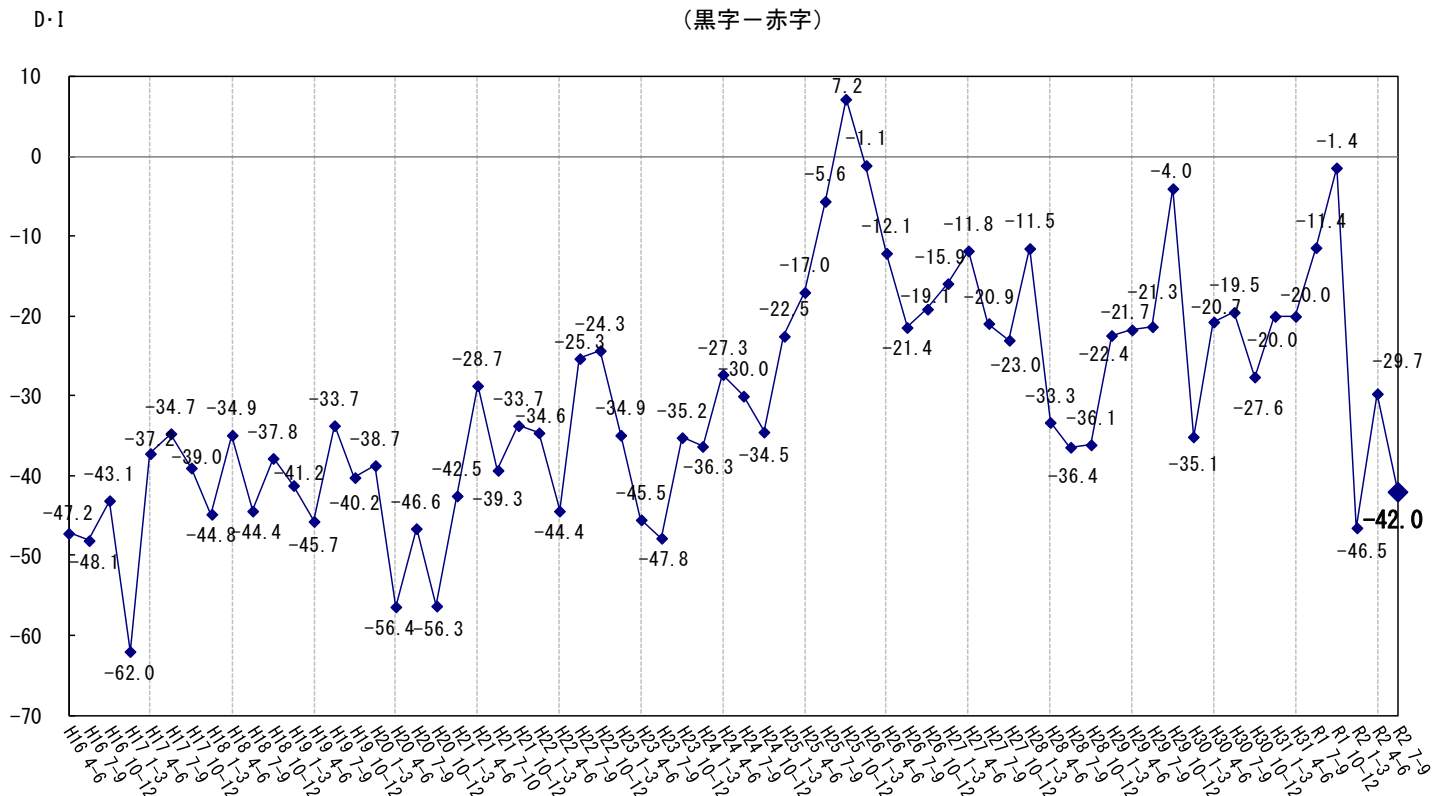
全業種平均でDI値▲42.0〔前年調査時（2019年7～9月期▲17.7）より24.3ポイント悪化〕

〔部会別DI値〕

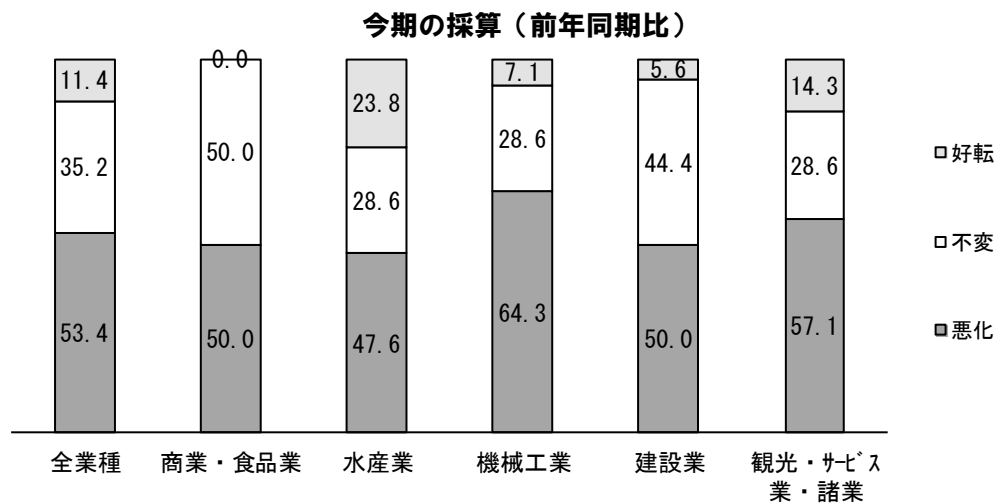
商業・食品業〔前年▲43.8→▲28.6〕、水産業〔前年6.3→▲38.1〕
 機械工業〔前年0.0→▲42.8〕、建設業〔前年▲17.6→▲38.8〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲31.3→▲57.1〕

(2) 今期の採算

採算推移（全業種平均D・I）



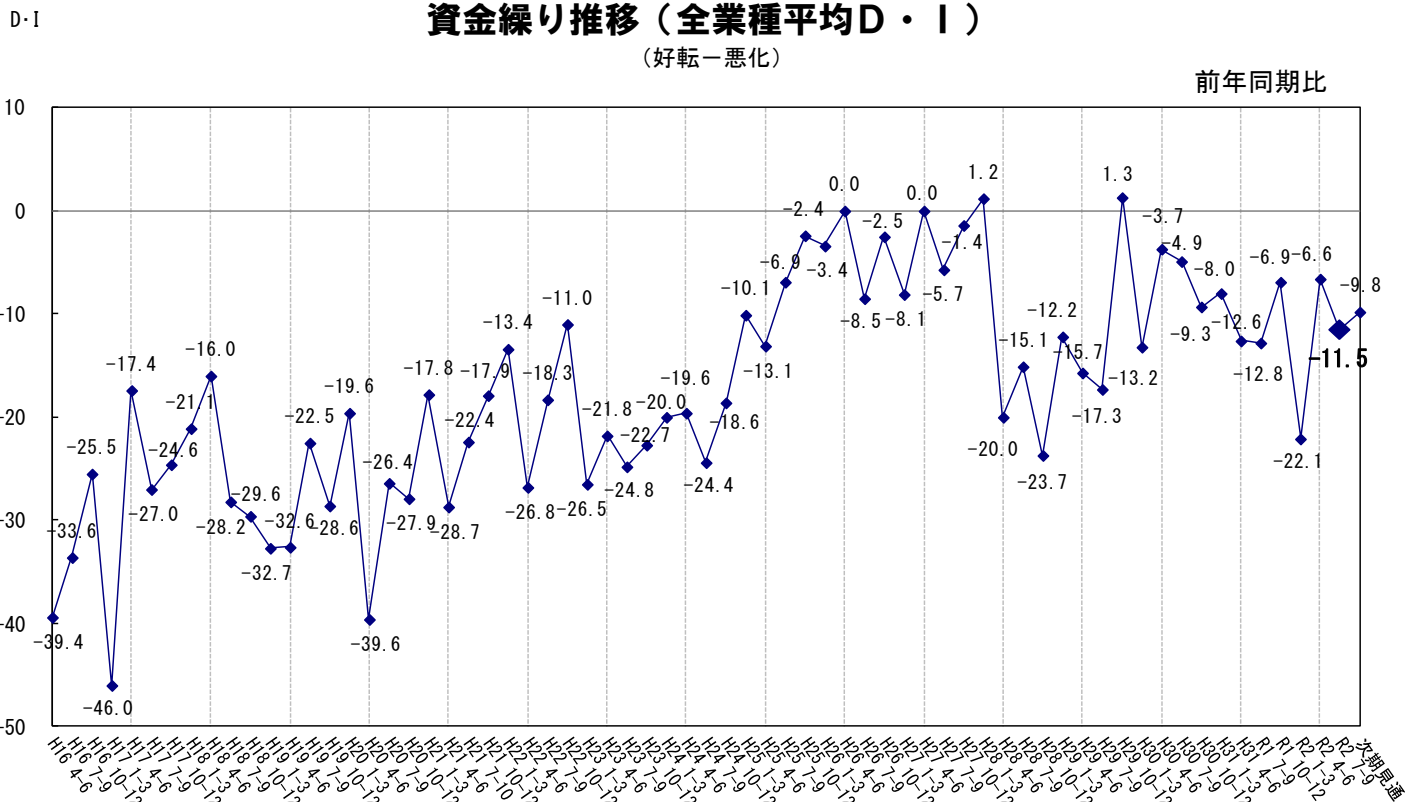
【前年同期比】（2019（令和元）年7月～9月期の水準と比較した今期の採算水準）



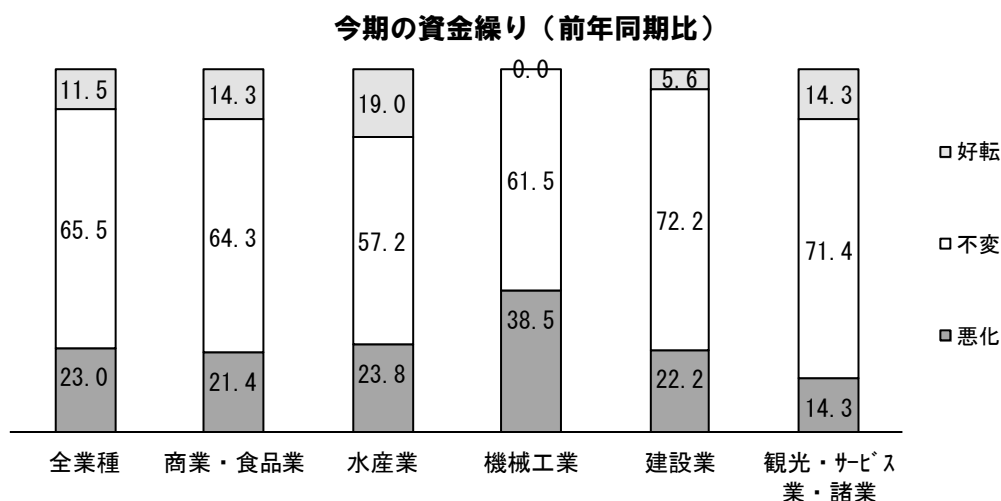
全業種平均で DI 値▲42.0〔前年調査時（平成30年7～9月期▲11.4）より30.6ポイント悪化〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲25.0→▲50.0〕、水産業〔前年0.0→▲23.8〕
 機械工業〔前年▲14.2→▲57.2〕、建設業〔前年0.0→▲44.4〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲18.8→▲42.8〕

(3) 今期の資金繰り



【前年同期比】（2019（令和元）年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）

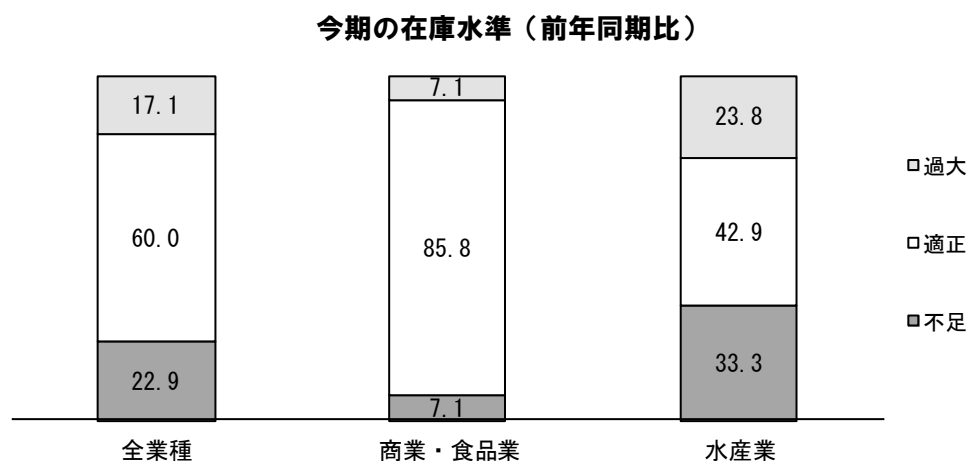


全業種平均でDI値▲11.5〔前年調査時（2019年7～9月期▲12.8）より1.3ポイント回復〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲31.3→▲7.1〕、水産業〔前年▲25.0→▲4.8〕
 機械工業〔前年▲15.4→▲38.5〕、建設業〔前年17.6→▲16.6〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲12.5→0.0〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（2019（令和元）年7月～9月期の水準と比較した今期の在庫水準）

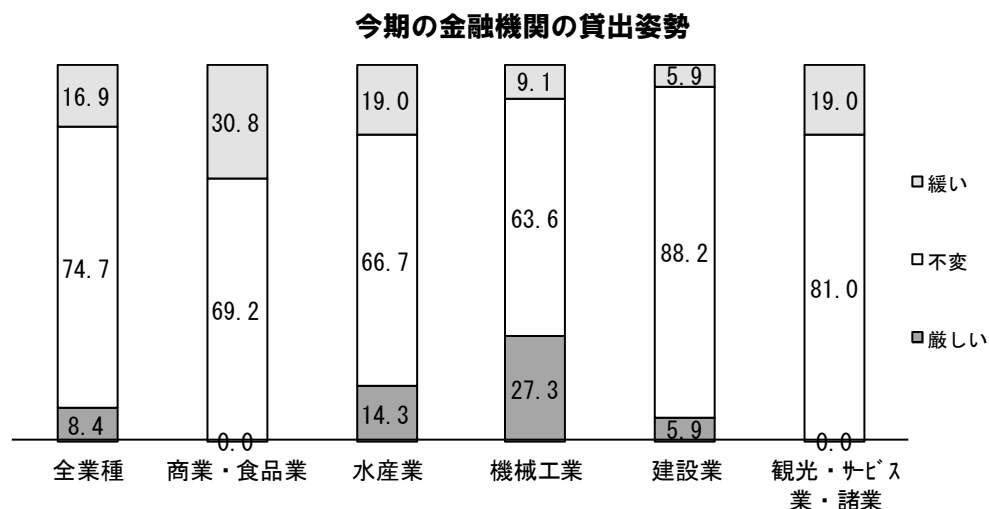


全業種平均でDI値▲5.8〔前回調査時（令和元年7～9月期▲9.7）より3.9ポイント改善〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲6.7→0.0〕、水産業〔前年▲12.5→▲9.5〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

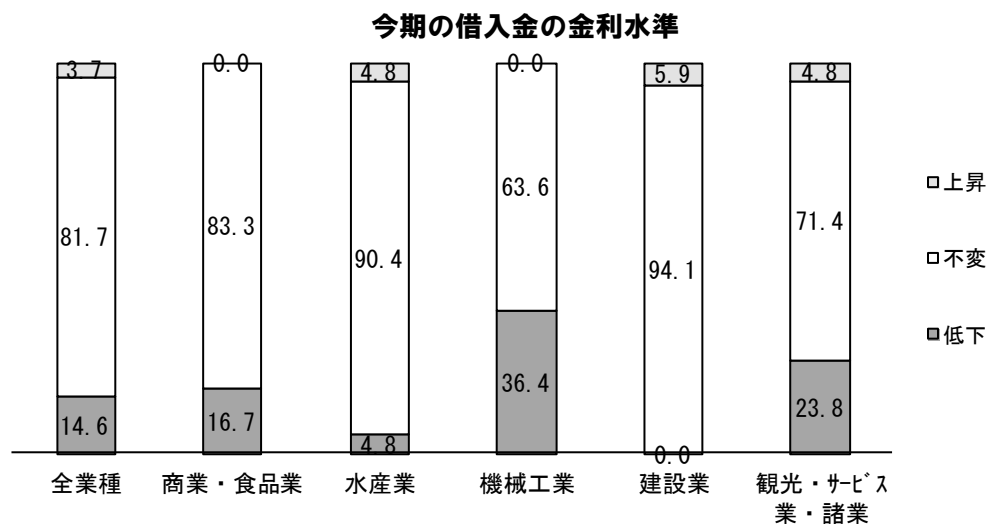
【前年同期比】(2019(令和元)年7月～9月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応)



全業種平均で **8.5** ポイント。商業食品業 **30.8**、水産業 **4.7**、機械工業 **▲18.2**、建設業 **0.0**、観光サービス業・諸業 **19.0**

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】(2019(令和元)年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準)

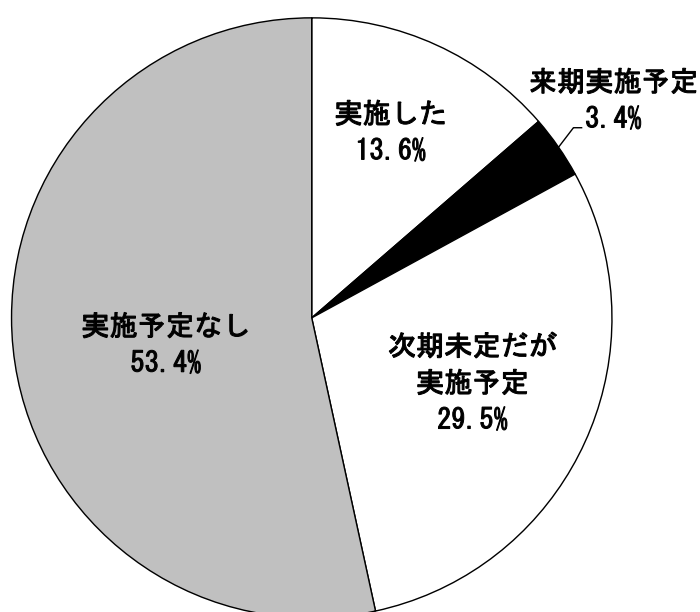


全業種平均で **▲10.9**。商業食品業 **▲16.7**、水産業 **0.0**、機械工業 **▲36.4**、建設業 **5.9**、観光サービス諸業 **▲19.0**。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

設備投資の実施状況

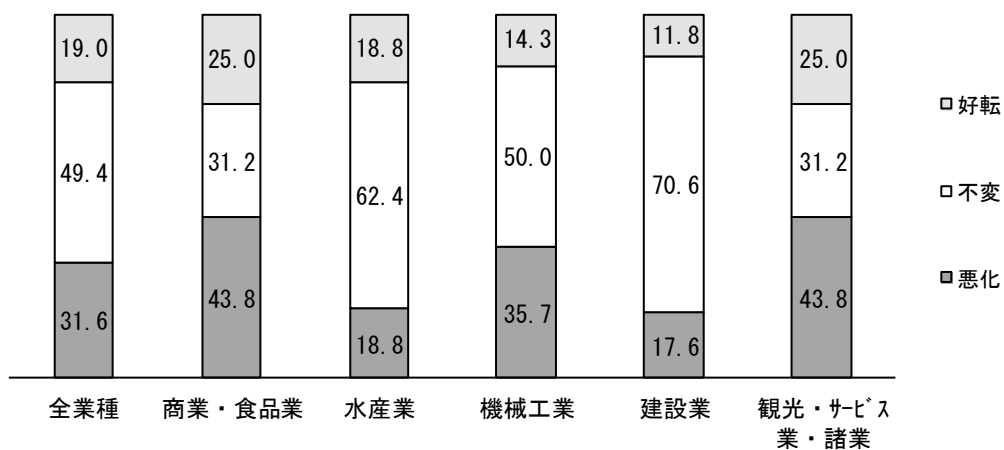


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況見通し

【今期比】（2020（令和2）年7月～9月期の水準と比較した来期の業況見通し）

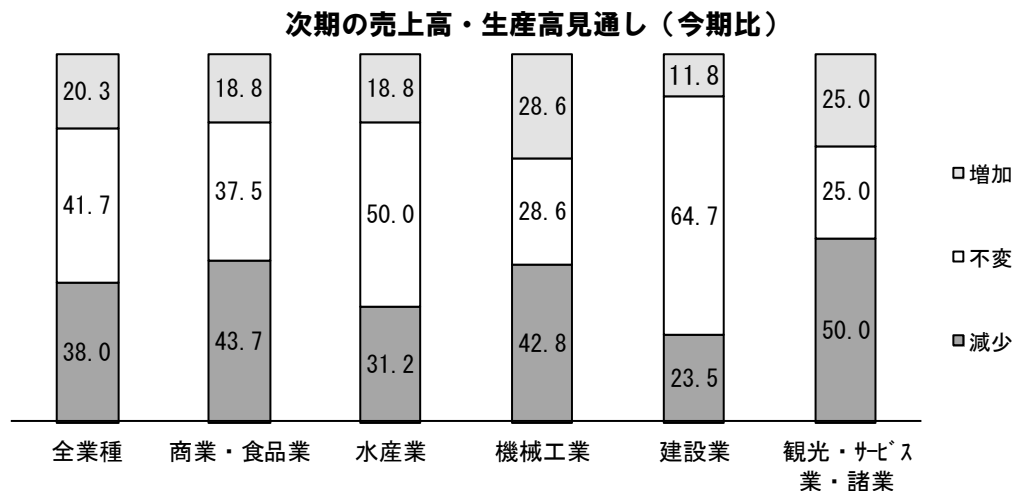
次期の業況見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 ▲25.0 [今期の業況 ▲42.1 と比較し、悪化の回答が減少傾向]

(2) 来期の売上高・生産高見通し

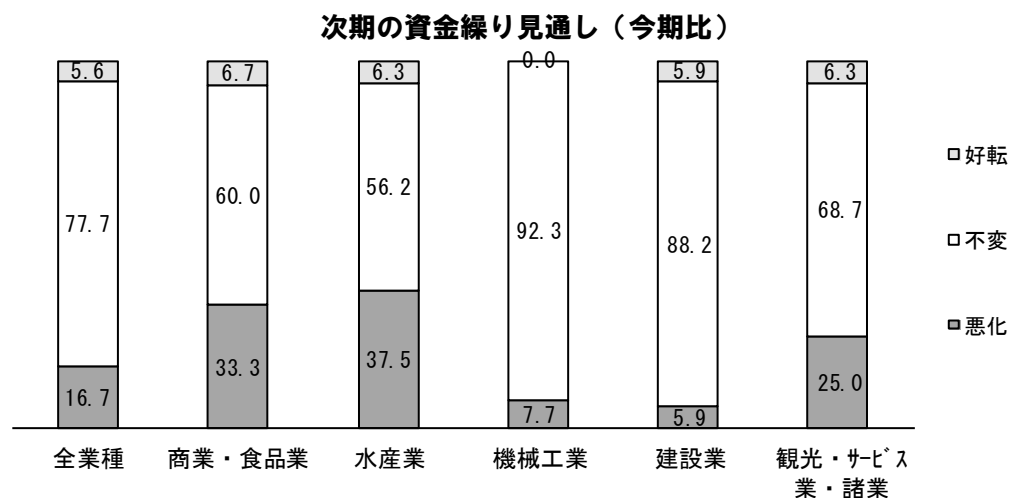
【今期比】（2020（令和2）年7月～9月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値 **▲26.2** [今期の売上高・生産高 **▲42.0** より商業・食品業、観光サービス業・諸業を中心に不変が増加、建設業では増加するとの回答増により 15.8 ポイント改善傾向]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（2020（令和2）年7月～9月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均 DI 値 **▲9.8** [今期の資金繰り **▲11.5** より商業食品業、機械工業、観光サービス業・諸業で不変の回答が増加し、1.7 ポイント回復傾向]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス ・ 諸業
業況判断 D・I	今期実績	▲42.1	▲35.7	▲33.4	▲50.0	▲44.4	▲47.7
	来期見通し	▲25.0	▲21.5	▲38.1	▲35.8	0.0	▲28.6
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲42.0	▲28.6	▲38.1	▲42.8	▲38.8	▲57.1
	来期見通し	▲26.2	▲21.4	▲28.6	▲50.0	▲5.5	▲28.6
在庫 D・I	今期実績	▲5.8	0.0	▲9.5	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲42.0	▲50.0	▲23.8	▲57.2	▲44.4	▲42.8
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲11.5	▲7.1	▲4.8	▲38.5	▲16.6	0.0
	来期見通し	▲9.8	0.0	▲33.3	▲25.0	▲16.6	0.0
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	8.5	30.8	4.7	▲18.2	0.0	19.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲10.9	▲16.7	0.0	▲36.4	5.9	▲19.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。

Ⅳ. テレワークの導入について

新型コロナウイルスの感染拡大により、首都圏を中心に通勤時等の人との接触を避け、働く従業員の感染リスクを低減する為に自宅の web 環境を使い、仕事を行うテレワーク（在宅ワーク）が推奨され、急激に拡大しています。また、現在もなお毎日新規感染者についての報道がされる中、公共交通機関を利用する地域では、新型コロナウイルスに限らず、近年多発する自然災害時にも活用でき、育児や介護の合間にも対応できるその柔軟な働き方から、引き続き運用されています。

北海道におきましても、暴風雪により国道の寸断や公共機関の運休が早期に決定する等、安全に出社する事が困難な場合など、やむを得ず出勤できない場合にも自宅で業務を行う事ができます。

しかしながら、実際に導入・運用するには業務内容や使用機器、情報管理等、事前に検討しなければならない課題もあります。

そこで、今回はテレワークの導入についての質問を行い、意見を伺いました。

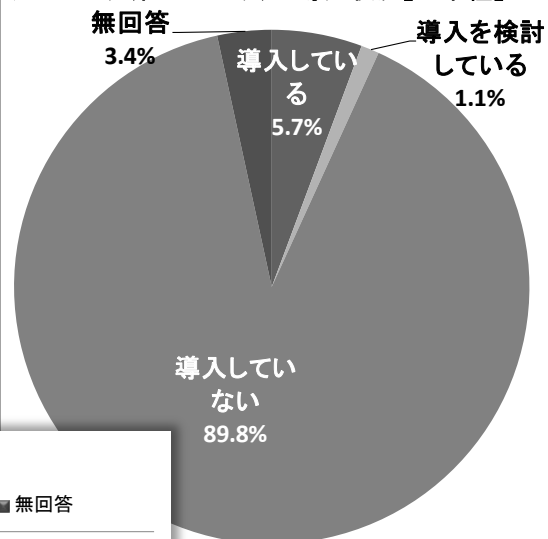


【テレワーク（在宅ワーク）の導入状況】

今回の調査では、「導入している」との回答が5件で5.7%、内訳としては、商業・食品業1件、機械工業1件、観光サービス業・諸業3件となっており、「導入を検討している」との回答は建設業の1件となりました。

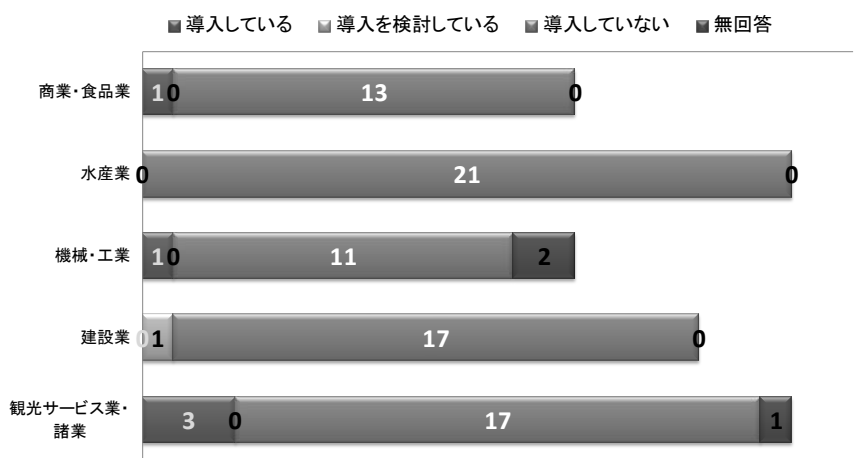
「導入していない」との回答が9割を占め、製造業や建設業、小売業等の現場での作業を主な業務とする方の多い紋別市において、テレワークの導入が困難なものが多く存在します。

テレワーク(在宅ワーク)の導入状況【全業種】



※「導入していない」との回答には、店舗兼住宅など、ご本人やご家族が自宅スペースで事務作業等を行っているケースもあります。

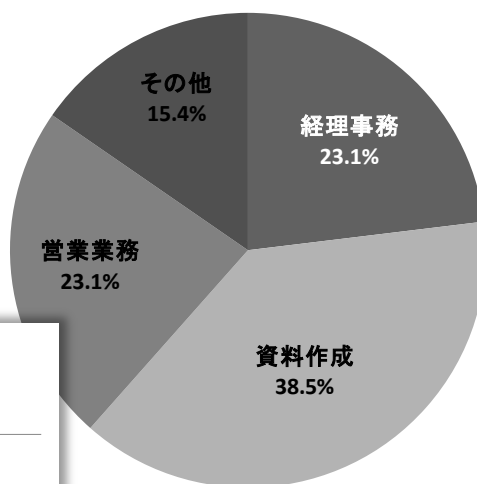
テレワーク(在宅ワーク)の導入状況(業種別)



【実際に行っている（行ってみたい）業務】

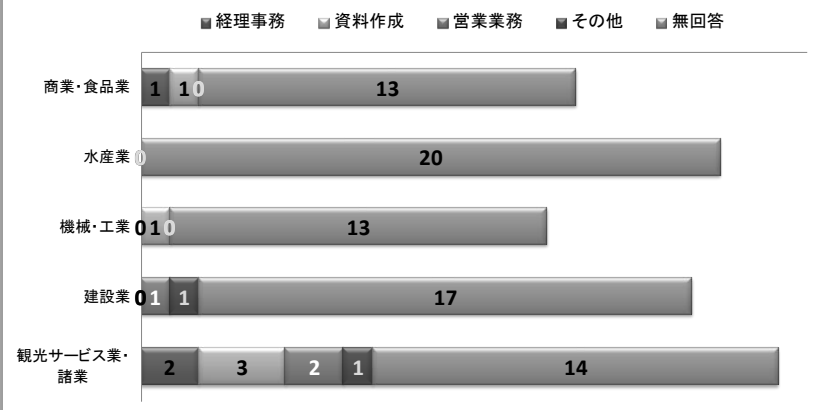
導入状況の設問で「導入している」「導入を検討してる」と回答された方へ実際に行っている（行ってみたい）業務についてお伺いしたところ、当方から提示したものが大体同数となり、パソコンでの作業が可能な業務となっています。

実際におこなっている(行ってみたい)業務【全業種】



実際におこなっている(おこなってみたい)業務(業種別)

※テレワークを導入している・検討していると回答された方のみ回答

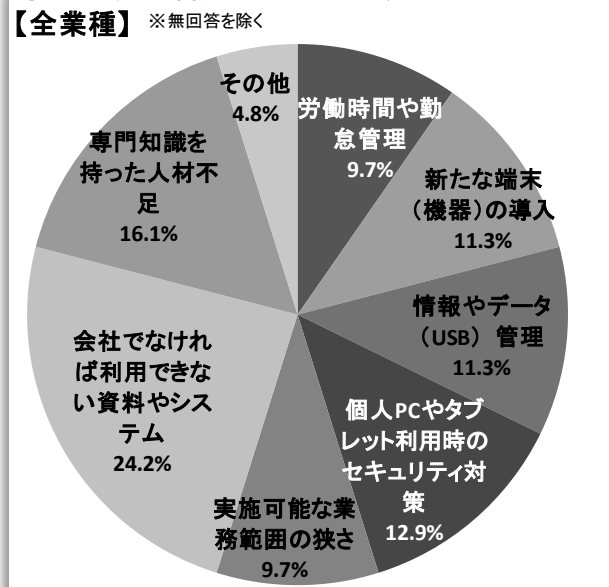


【導入にあたり課題となったもの、懸念されるもの】

今回の設問では「会社でなければ利用できない資料やシステム（24.2%）」との回答が最も多く寄せられました。

次いで、「専門知識を持った人材不足（16.1%）」、「個人PCやタブレット利用時のセキュリティ対策（12.9%）」と続きました。

単純に自宅で作業を行って貰うだけでなく、どのように作業を行って貰うのか、トラブル等が発生した時の対応も含め、善処できる人材がいるかどうか懸念材料となっています。

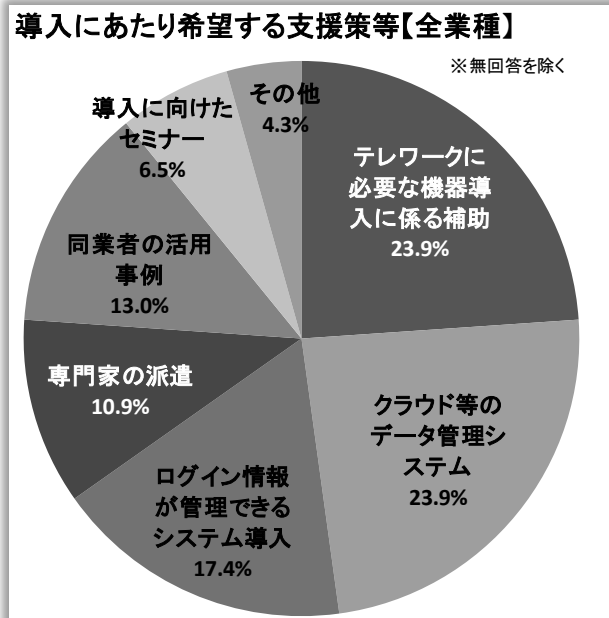


【導入にあたり希望する支援策】

上記、課題や懸念材料から、希望する支援策等について伺ったところ、「テレワークに必要な機器導入に補助（23.9%）」

、「クラウド等のデータ管理システム（23.9%）」が最も多く、次いで勤怠管理にもなる「ログイン情報が管理できるシステム導入（17.4%）」と続きました。

また、「同業者の活用事例」も13.0%と多くなっており、実際にどのような業務や場面で活用する事が出来るのかといった内容を知ることによって、導入可能かどうか、検討材料になるものと思われます。



【その他のご意見】

- ・元から自宅兼店舗のため、在宅ワーク（小売業）
- ・テレワークが出来ない業種（土産品店）
- ・食品加工なので無理（水産加工業）
- ・水産加工品製造においては不可能ですが、経理処理等は一部可能。社内電算システムの自宅使用とセキュリティに問題あり。（水産加工業）
- ・以前はしていたが今はしていない。（梱包資材製造）
- ・高齢のため、ネット・タブレットを導入しても使いこなせません。宝の持ち腐れになりそうです。（家具等製造業）
- ・一人のみテレワークを実施。（印刷業）
- ・机の上で出来る仕事ではないので、無理な職業もあるのではないのでしょうか。作業が外でなければ出来ないから。（建設業）
- ・会議等で活用（建設業）
- ・現場の仕事が主で、テレワークはできない。（土木工事業）
- ・テレワークできる業務が少ない（運輸業）
- ・紋別以外は全てテレワーク。社員を信じ、社員に認められる社長であれば、テレワークは出来ると思います。（酪農サービス業）
- ・在宅でできる仕事ではないため。（建物管理業）
- ・導入を検討中（不動産業）